



平成30年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業

平成30年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業(主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁)が8月12・13日の2日間、日本武道館大会議室と小道場で、研究者5名、研究協力者2名、連盟事務局1名が出席して実施された。本研究事業は平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、少林寺拳法の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等の研究をするものである。今年度は、実践例報告を踏まえながら指導法の研究、指導法の普及案についての検討協議を実施した。

■ 1日目(8月12日)

◇開講式

はじめに三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「中学校武道必修化は7年目を迎え、これからはいよいよ内容が問われてきます。全国指導者研修会では指導者の資質向上と指導力向上を主な目的として実施していますが、両方とも中学校の教育現場で欠かせないものです。次期学習指導要領では武道9種目が並列明記されることに決まり、周知徹底されます。それを受け、少林寺拳法のすばらしさをどのように生徒に伝えるか、少林寺拳法の言語



三藤芳生 常任理事

化が必要となってきます。少林寺拳法のすばらしさを全国の中学生に伝えられるよう、現場で役に立つ指導法をしっかり研究していただき、2日間が充実した内容となることを期待しています」と述べた。

続いて、中島正樹少林寺拳法連盟中学校武道必修化プロジェクト委員会委員長が研究者を代表して挨拶に立ち、「昨年までは日本武道館研修センターでどのように授業を展開するかを地元の中学生に協力いただき模擬



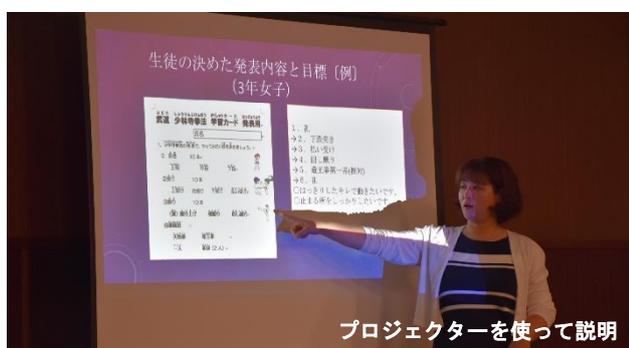
中島正樹 委員長

授業を行って研究してきましたが、今回は少林寺拳法を通じて何を教えられるのかを研究していきたいと考えています。具体的には、有段者ではない先生による授業の実践例発表、外部指導者による授業及び実施までの準備、生徒へのアンケート等をもとに、少林寺拳法で何を教えられるかを探り、全国指導者研修会で生かしていきたいと考えています」と述べた。

◇検討協議

開講式に続いて、長野県松本ろう学校教諭の桑島^{くわじま}あき^{あき}研究協力者が、授業の実践例報告を行った。「生徒の身体の状態や障害の度合に合わせて授業を行っている。身体を動かす楽しさを知り、将来働ける体力や気力を身につけてほしいと思っている。以前は剣道を行っていたが、骨が弱い生徒や頭部に衝撃が加わってはいけない生徒もいるため、衝撃が少ない方

法ででき、場所や道具の心配もなく、安全面の配慮もしやすい少林寺拳法に変更にした。授業では基本動作をしっかり学ばせた上で、“突き”“受け”“蹴り”を教え、“天地拳第一系”“竜王拳第一系”へと段階を踏んで進み、最後に演武発表を行う。相対で練習したり、発表を見合ったりする中で、“次はこうしたい”“もっとやってみたい”というような意欲的な生徒もでてきた。障害を有し、体育が好きではなく、難しい動きが苦手というような生徒から、“動いてみて楽しかった”といわれたときは、少林寺拳法を取り入れてよかったと思った。課題としては、運動量の確保、学習の進度設定、指導者の変更に伴う授業の継続、胴衣・防具購入の予算確保などが挙げられる」



プロジェクターを使って説明

昼食をはさみ、午後は小泉実研究協力者が静岡県教育委員会主催で行われた静岡県伊東市立対島中学校での武道(少林寺拳法)体験授業について、実施までの経緯や授業内容について報告を行った。

その後、高坂正治研究協力者が大学生に対して行った学校体育における武道関連のライフスキル尺度についてのアンケート結果(リーダーシップ、礼儀作法、精神力、前向きな思考、共感性)を発表した。授業前後を比較すると、どの項目も概ね上昇していたと調査結果を報告した。なお、アンケートは中学生に対して今後実施する予定である。

◇模擬授業

場所を小道場に移し、桑島研究協力者が教師役、他の研究者が生徒役となり2時限分の模擬授業を行った。1時限目はまずランニング、ストレッチ、本時のめあての確認、黙想を行い、その後、注意するポイント(体重移動、発声、狙う位置、間合)を意識させながら“突き”“蹴り”を行った。最後に本時の感想を聞いて終了した。2時限目は、“突き”“受け”“蹴り”“天地拳第一系”“竜王拳第一系”を行った後、授業の進め方、技の教え方について協議がなされた。

■2日目(8月13日)

◇検討協議

小井寿史研究者が「少林寺拳法の授業実践による身体的効果」と題し、プロジェクターを使って発表した。「体幹部の深層筋を鍛えることにより、姿勢が良くなり、それにより内臓の働きが良くなる。肩こりや腰痛が軽減する効果もある。また、大きな声を出すためには姿勢を正し、横隔膜を機能させる必要がある。それによってしっかりと呼吸ができ、脳に酸素が送り込まれ、脳が活性化していく。以上のことが少林寺拳法を行うことにより可能になると思われる」

つづいて、桑島研究協力者が授業で意識している点や授業実施による効果を発表した。その後、合田雅彦研究者が自身で作成した学習指導案の説明を、安田智幸研究者が8月上旬に行われた少林寺拳法実技指導者講習会の説明・報告をそれぞれ行った。実技指導者研修会の報告では、技を行う際の注意点や安全面への配慮について、映像を見ながら確認した。

休憩を挟んだ後、中島研究者が少林寺拳法授業指導法普及案について発表した。「この指導法研究事業の成果を全国少林寺拳法指導者研修会、学校授業担当者特別研修会、連盟本部大学合宿、理事長会議、地域社会少林寺拳法指導者研修会、議員振興連盟への報告・陳情、教職員支部による研修会等で生かしていきたい。また、体験授業用プログラムや授業協力者名簿の作成、中学校武道必修化指導書の活用、武道学会への発表等により、少林寺拳法を積極的にPRしていきたいと思う」

◇閉講式

閉講式では、中島研究者が講評を、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が主催者挨拶をそれぞれ行い、指導法研究事業の全日程を終了した。

